

# Fast life, slow life

村越真のオリエンテーリング日誌 2009年4月-2009年5月

気づいてみれば、思い切り突っ走った4、5月。指導にも邁進したが、改めてその難しさと研究の必要性を感じる。道のりはまだまだ遠い。

## 新しい学期へ

### 4月4日

「村越さん、4月4・5日は空いてますか？」と宮内から電話をもらったのは先月の中頃だった。この週末は珍しく土日が空いていた。「きっと私のために空いていたんですよ」なんて妙齢の女性から言われると、それがアドベンチャーレースの運営であっても、ドキドキしてしまう。

仕事は山の中のスイーパー。前半部は標高差1000mの急峻な山登りと道のない尾根の下り。このエリアからチームを早めに確実にクリアしてしまいたいというのが宮内の腹づもりだ。

最後尾のチームと行動するので、ペースとしては物足りないはず。自分のペースを落とすため、朝霧まで自転車でいくことにした。距離は約55kmだが、累計標高が1600mもあった。後半は雨にも降られた。やや辛く、スイーパーにはちょうどよい疲れ具合に。

4月5日は、周囲が明るくなり始める5時にスタート。どんなチームが最後尾になるかと思いきや、登り口で道を間違えた重鎮こと池田チームだった。ナビゲーターにはツインの一人早川秀人さんと安藤理恵ちゃん。重鎮の地図読みは甘い、秀人さんがうまくフォローする。理恵ちゃんも高度計を読む役をうまくこなしている。これくらい危なげないと、スイーパーも楽しい。

村田さんが面倒見たチームは「おいおいそんなところ降りないでくれ…」という村田さんのつぎやきを無視して、やぶ尾根を下ったので、村田さんは泣く泣く着いていったとか。選手と同じような体験ができて参加料はただ。参加費の高いアドベンチャーレースでは、スイーパーはおいしい仕事だ。

### 4月6日

二日間の自転車でさすがに脚の外側広筋が軽い筋肉痛になる。大学では新学期が始まり新入生を迎える。久しぶ



▲IOFのイベントアドバイザークリニックを終えて、中国協会からは「指南盤」という洒落たお土産品をいただいた。

りにハイな気分になる。

### 4月10日

来年開催のアジア選手権の打ち合わせで、夜名古屋へ。帰りの新幹線は人身事故で1:20の遅れ。翌日の富士登山に備えて、深夜の準備。

## 山:スローライフの原点

### 4月11日

長岡さんの講習で富士登山。今日は五合目に集合して、アイゼンやピッケルワークを練習する。オープンな雪面を横切る時、前の人にくっついて歩こうとすると、すかさず長岡さんの指導が飛ぶ。「今の時期はその怖れは低いですが、こういうところでは雪崩が起こった時のために間隔を開けて、上を必ず見てください」。命がかかってい



▲雪の残る富士山へ。雪上訓練のあとは、明るいうちからビールで一息。山ならではのスローライフだ。翌日は天気もよく、気持ちよく山頂に立つ。

るだけに、客だろうが、言うべきところは言う。

天気がよくてアウターを着ていると暑い。17時ごろには雪上訓練を終え五合目の佐藤小屋に戻った。明るいうちからビールを飲んで、久しぶりのスローライフ。他の宿泊者の会話を聞くでもなく聞いていると、ハセツネの話をしている。自分が走れなくなって、第三関門のスタッフをしているという。思わず話の輪に入り込んでしまった。

### 4月12日

朝4時に出発し、山頂を目指す。今日も天気は良い。気温も上がっている。雪はざくざく。アイゼン、ピッケルは装備しているが、滑落の危険はほとんど感じない。夏の一般登山者とほぼ同じ4時間で山頂へ。手にしてい



るのは、父から送ってもらった旧式のピッケルだ。季節の厳しさは全く違うが、少しだけ父に近づけた気がした。暑さのため脱水症状で、下山のころには軽い頭痛に見舞われる。

#### 4月15日

熊谷の立正大学に山西哲郎さんを訪ねた。トレランという言葉もなく、山を走ることが異端のように思われていた1980年代から、山西さんは自然走という考え方を提唱し、数々の実践も行った。今日のトレランブームの大きな源流を作ったといっても過言ではない。これまでも、学会や原稿でオリエンテーリングやロゲイニングの紹介を何度か依頼されてきたが、僕が山西さんに何かを依頼するのはこれが初めてだった。

当然一緒に走るつもりで、ウェアと靴を持参した。「走りましょうよ」というと、喜んでつきあってくれた。本来なら、気の重い理事就任依頼の仕事が、楽しい時間に変わった。立正大学の周囲はまだ武蔵野の面影が残り、キャンパスも豊かな緑に包まれている。

地理学科（立正は地理学で有名）に後輩がいるという、ランニングの後、その新しい研究棟に連れていってくれた。そういえば立正大学は昔オリエンテーリングクラブがあった。山西さんとともに復活というのも悪くない。

#### 4月19日

新座のチャコの実家に、東京に進学した長男を訪ねた。朝、「散歩いくか？」という、おとなしくついてきた。再び子どもとアウトドアで過ごせる時間がくるのだろうか？

#### 4月25日

かつての指導学生で、就職後もメンタルマネージメントや大学院進学でつきあいのあった0君から結婚式に誘われた。僕の生活ぶりを知る彼は、「息抜きのつもりで来てください」というメールをよこした。サッカー部の顧問である同僚の先生やらメンタルマネージメントで顔見知りの人も多く、楽しい披露宴だった。就職後のメンタルマネージメントの時付き合いのあった当時の監督が今は地域振興の課長をしていて、「先生、オリエンテーリングって、規程で決められた開催場所ってあるんでしょうか」と聞いてきた。山間地の振興のためのスポーツイベントを考えているのだという。すかさずロゲイニングの事を話す。ああ、また仕事のタネを作ってしまった。

#### 4月26日

仕事仲間の関西大学の先生が、山岳

遭難対策のための研究機構を設立した。第一回の総会ということで神戸まで出かけた。静岡駅まで走って、新神戸駅からまた走って会場へ。帰りは新幹線で爆睡。

### 再び香港へ

#### 5月1日

朝のフェリーで中国の中山へ。今回のクリニックは中国から6名、香港から6名、台湾とマカオから5名、日本から2名など、合計20名近い参加があった。伝えるべき内容については何の不安もなかったが、英語の講習を3日間やることへのプレッシャーは、自分が勉強する上でのモチベーションとなった。イベントアドバイザーとは何かから始めて、ルールや地図規程、ジュリーの対応などを3日間かけて行なった。実習あり、中国式宴会ありの3日間を楽しんだ。

最終日はさすがにくたくただったが、参加者も充実した楽しい時間を過ごしてもらえたようなのが何よりだ。最後に、中国協会から記念品ももらった。指南盤、つまりはコンパスの元祖なのだ。指南という言葉には指導するという意味もあるから、その意味でもイベントアドバイザークリニックの土産としてふさわしい。中国協会の事務局や幹部たちとパーソナルな付き合いができたのも収穫だった。帰りのフェリーは爆睡。この日の夜は香港在住の出田さん家族と夕食をともにした。



▲クリニックは演習や実習あり。香港や中国でも将来性豊かなオリエンティアが育っているを実感した。ぼっちり講義をした後は、しばしのスロウタイム。ホテルのバーでカクテルを。

#### 5月4日

帰国したその脚で、横浜で開催している卓球の世界選手権観戦にいった。

同僚と協同で卓球の研究をしているのだが、彼がその研究を世界選手権の併設の国際会議で発表したので、観戦のフリーパスがもらえたからだ。

会場は横浜アリーナ。個人戦のベスト4ともなるとすでに中国選手しか残っていなかったが、それでも15000は収容できると思われる会場の半分が埋まっていた。時々誤審があったり点数の数え間違いがあるのが世界選手権らしくなくてほほえましい。同僚が、「組織的な部分とアマチュア的なところが同居していますよ」と言っていたが、そのとおりだった。

#### 5月9日

週末のJOA理事会関係会合のため東京へ。まだ中国行き疲れが回復しておらず、新幹線で仕事をしている時から不調感が漂っていた。理事会プレイングでは意識が飛ぶかと思っただが、なかなかそうはならないものだ。

その後はスキー0打ち上げに出席。当然こういう場には下心を持って出かける。アジア選手権の仕事を井上君と清水さんに依頼。二人とも気持ちよく応じてくれたばかりか、清水さんとはすぐに具体的な話に入る。頼めば気軽に応じてくれる人がいるからこそ、自分もこんな生活が続けられるのだと思う。

### 新たな胎動

#### 5月10日

新宿に宿泊。朝、代々木公園で走る。この季節の都会の朝のランニングは至福の時とさえ言える。理事会・総会はかなり疲れたけれど、新役員とともに新しいことが始まる予感を感じる。山西哲郎さんがJOAの新しい会長に就任した。自然の中のランニングを広め、地理が好き。これ以上の適材はいないだろう。

#### 5月14日

JR大人の休日倶楽部。その後、阿闍梨のなおちゃんが、トレッキングやオリエンテーリング・ロゲイニングのイベントを仕事にしていきたいというので相談に乗る。こちらも読図の通信教材やら読図検定の構想を持っていたので、層状効果的に話は妄想化する。自分自身はそういう道は選ばなかったが、その分知恵を得てパブリックリレーションに役立つ地位を選んだ。それを、勇気ある人たちに還元していきたい。

その後は、JOAに移って普及のタスクフォースの会合を持つ。様々なタネはある。後はそれを植え、育ててやることだ。

### その先の普及・指導へ

## 5月16日

ヤマケイの連載の第二回取材で奥武蔵へ出かける。子の権現周辺を6kmほど歩く。生徒役の編集部の菊野さんは、尾根・谷も随分読めるようになっていた。

## 5月18日

1週間で3回も東京に来ると、さすがにうんざり。東京で登山研修所の安全検討会。その後、ノースの田口さんと今年のロゲイニングやらトレランイベントの相談。

## 5月23日

日本の教育は学力低下やら教員の不祥事でバッシングとも言える批判を受けているが、実は国際的にも定評がある。だいたいPISAの上位にいる国の多くの人口規模は日本より遙かに小さい。1億人を越える人口があって、これだけの教育水準を保っている国は少ないのだ。その背景には教員の研究熱心さがある。互いの授業を見せ合う研究授業は、教員の質向上に大きな役割を果たしてきた。こうした事情を知る端くれとして、自分自身も周囲の人たちも一般の人向けにナビゲーションや読図の講習を多く手がけるようになった今、私たちにも「研究授業」が必要だと考え、指導者向け阿闍梨読図研修会を行なった。



▲阿闍梨の指導者研修。左端が今回の「掘り出し物」のIさん。

阿闍梨のメンバー以外にも、大阪OLCの野沢さんや、アドベンチャーレースのポーリン、その他の参加者があった。

研修会なので、教えるのではなく、教えて相互に批評する。いきなりトップにあたったIさんは、読図の面白さに気づいて周囲の人たちに教えるようになってたったの1年。用意した資料から、その勉強熱心さが伺える。本人は謙遜するが、知識も指導のポイントも高い。この日は登場しなかったが、紙粘土で作った模型を毎回現地に持参するという。

その後も交互に講師役を務めた。いつもは一方向的に講義するだけの自分には他の人の教え方を見るのも新鮮で刺

激になった。こういう人たちに会えるのも研修会の楽しみの一つだ。その後の食事がまた楽しい。

## 5月25日

ハードな一週間が始まる。今年3回目になる地震体験車による実験が月曜日から水曜日までほぼフルに行なわれる。慣れたパラダイムと補助者に恵まれているとは言え、実験初日は緊張するものだ。案の定、最初の被験者で提示するビデオのタイミングと地震開始がうまく同期できず、一人分のデータを没にした。その後も、速報のタイミング設定が間違っていたことが発覚したりと、散々だった。やれやれ。

## 5月28日

JR大人の休日倶楽部で東京へ。早めの新幹線で神田に着いたので、フロントでジュースを飲んでしばし仕事。これが裏目に出た。講習が終わって、さあ電車に乗ろうとすると財布がない！大人の休日倶楽部に戻るがやはり見つからなかった。交番に届けてから、ネットでクレジットとキャッシュカードの紛失手続きの電話を調べて、帰りの新幹線で掛けまくった。クレジットカードには1230円の使用記録が報告されているらしい。後から宮内に「がつんと20万円くらいのマウンテンバイク買われなくてよかったですね」と言われた。ややブルーだったが、休日倶楽部の担当のSさんが親身になってフォローしてくれた。全ての手続きを終えて静岡に帰ったころには、もうすでに気持ちは切り替わっていた。Sさんは「何か意味があるんですよ」と言ってくれた。心身ともに無理しちゃいけないということなのだろうか。

## 5月29日

昨年度から引き続いた県産産部の富士山研究会の会議に参加。朝霧で懇親会つき合宿なのだ。2次会も終わり、部屋に引き上げると、県の担当の人がくだを巻いていた。受託を受けた私たちも今ひとつ全体像の見えない研究。職員ともなれば相当ストレスもあるのだろう。総予算はたかだか1000万程度だが、富士山西麓にある様々な資源を集約しようというプロジェクト。朝霧で遊んでいる僕から見たら、こんな夢のあるプロジェクトはない。アウトドアパラダイス朝霧は目の前にある。

## 5月30日

朝霧から昼頃大学に戻ってきた。久しぶりに静大大会を開くのだが、そのための地図調査講習を頼まれた。最近竹林の整備が進んで綺麗になった農学部裏の森に入ってみた。可能性はよ

くなっているし、微地形も抜群だった。講習よりも、自分がこの領域をちゃんと地図化したいという気持ちが強くなって、半分講習してから「あとは練習ね」といって、放っておいた。骨格は形になっているが、等高線表現には苦勞しているようだ。それが自覚できているのだろうか。

夕方は、何を思ったか、久しぶりに5000mの記録会を一人トラックで行なった。18'56。思いついてやって、このタイム。意外と早いと見るべきか。

## 5月31日

好日山荘春の読図講習会屋外講習。参加者はバラエティーに富んでいて、手強いおばさん参加者から、静岡消防の消防士まで。富山や岐阜の山岳警備隊なら派手な遭難事故が多いが、静岡市では、安倍川奥の低山での「地味」な遭難が多く、必然的に捜索隊のナビゲーション能力への要求は高くなる。そのことに気づいての受講だという。



▲31日の講習では、コマ図を使った整置の練習を取り入れてみた。

## 6月1日

ハセツネのエントリー開始日であった。昨年は二日目の夕方には2000人の定員がいっぱいになった。今年は1日持たないだろうと言われていた。しかも2000人のうち1000人がポイント制でうまっている。勝負は受付開始の10:00のワンクリックにかかっているかも知れない。実際、周囲に聞くと午前中休みを取る人、フレックスにした人など様々だ。僕は10:10まで授業がある。それから申し込んでだめだったら仕方ないと開き直りの心境。

案の定10:10ではもうサーバーがダウンしていた。11:00ごろ再トライすると、反応は遅いがなんとかつながり、とにかくエントリーだけはできた。こんな状態だから、クレジット以外の決済を選ぶ人などほとんどいないだろう。まあ今日中に払い込めば大丈夫だろう。12:00には定員に達していたらしい。今年初回の朝霧ですら、申し込み開始後3週間でいっぱいになってしまった。トレランバブルはまだまだ続く。

(村越 真)